

令和 6 年 7 月 18 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第3号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
6月	4	24.5	23.7	29.3	28.0	20.1	20.3	116	61	28.9	21.0
	5	25.0	24.2	27.4	28.1	22.9	21.1	30	78	5.1	17.2
	6	24.4	24.8	26.7	28.5	22.5	21.9	116	90	0.5	15.1
7月	1	27.7	25.5	31.2	29.2	25.6	22.7	141	96	12.9	16.7
	2	29.8	26.3	33.4	30.2	27.6	23.3	1	87	26.6	20.8
	3	25.1	27.0	28.0	31.2	23.0	23.8	218	64	6.4	24.9

【7月9～16日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 0.5℃低かった。

降 水 量：平年比 215%と多く、11日、14日、15日には 50mm/日を超える降雨があった。

日照時間：平年比 138%と少なかった。

2. 管内の生育概況

- ・7月10日以降曇雨天が続いたことから、草丈が伸長し、徒長気味の生育となっている。
- ・分けつ数は増加しているが、深水傾向で推移した圃場を中心に茎数不足となっている。

3. 情報田生育調査結果（7月17日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	70.2	40.9	36.9
平年値（平年比）	69.2(101)	38.9(105)	36.8(100)
茎数（本/m ² ）	258	202	301
平年値（平年比）	320(81)	283(71)	451(67)
葉齢（L）	10.9	8.4	9.6
平年値（平年差）	10.2(+0.7)	9.0(-0.6)	9.6(±0)
葉色（SPAD値）	40.4	48.6	45.1
平年値（平年差）	41.3(-1.6)	39.8(+8.8)	41.3(+3.8)
概況			
<p>生育</p> <p>草丈：「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」はやや高い。</p> <p>茎数：いずれの品種も増加しているが、全品種で少ない。</p> <p>葉齢から見た生育の早遅： 「夢しずく」は進んでいる。「さがびより」は遅れている。</p> <p>葉色（SPAD値）：「夢しずく」はやや低く、 「さがびより」「ヒヨクモチ」は高い</p>			

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

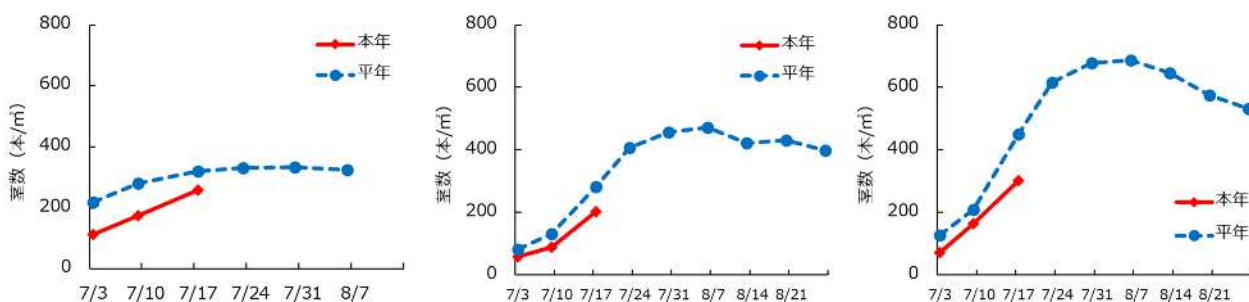


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

(参考) 農業試験研究センター米づくり情報3号 R6年7月16日(抜粋)

移植日	項目 品種	年次	草丈	茎数	葉齢	葉色	概況 (平年と比較して)
			cm	本/m ²	L	SPAD	
6月18日	夢しずく	本年	48.6	297	9.1	39.1	[気象] 7月9日～15日まで ◆平均気温…平年より0.4℃低い ◆日照時間…短い(平年比 41%) ◆降水量…多い(平年比 226%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は高く、「ヒヨクモチ」はやや高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「ヒヨクモチ」は少なく、「ヒノヒカリ」、「さがびより」はやや少ない。 ◆葉齢 「夢しずく」、「さがびより」は平年並み、「ヒノヒカリ」はやや多い、「ヒヨクモチ」はやや少ない ◆葉色 「夢しずく」、「さがびより」はやや濃く、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」は濃い。
		平年	45.1	325	9.1	38.1	
		平年比(差)	108	91	±0	+1.0	
	ヒノヒカリ	本年	44.0	429	9.4	42.8	
平年		39.6	440	9.2	40.5		
平年比(差)		111	98	+0.2	+2.3		
6月20日	さがびより	本年	43.3	304	9.0	42.2	
		平年	38.9	321	9.0	40.9	
		平年比(差)	111	95	±0	+1.3	
	ヒヨクモチ	本年	37.3	520	9.1	43.9	
平年		36.2	562	9.5	41.6		
平年比(差)		103	93	-0.4	+2.3		
留意点	○ 7月10日以降曇天が続き、日照時間が極端に少なく、降雨も多かったことから、各品種とも、急激に伸長(10cm～15cm程度)した。茎数は6号・7号分げつや3・4号の二次分げつが発生しているが、先週より鈍化した。 ○ 茎数が少ない圃場では速やかに浅水管理とし、分げつ促進と充実に努める。						

4. 普通期水稻の今後の管理について (7月17日～)

(1) 水管理

- ・分げつ数確保のため、浅水管理、間断灌水を徹底する。
- ・1株当たり茎数が確保できた圃場から、中干しを実施する。
- ・中干しは土に軽い亀裂が入り足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。
- ・中干し時期の目安は以下のとおり

①「夢しずく」

6月10～14日頃移植の圃場では7月中旬から。

1株あたり茎数が18本以上。

②「ヒノヒカリ」・「さがびより」・「天使の詩」・「ヒヨクモチ」

6月20日頃移植の圃場では7月下旬から。

1株あたり茎数が20本以上。

※茎数が不足している圃場では、上記の目安より中干し時期が遅れることが予想される。そのような圃場では茎数が確保できたことを確認してから、軽めの中干しを実施する。

中干しの効果

- ・無効分げつの発生を抑制する(過繁茂防止、生育量の適正化)
- ・土壌に酸素を供給する(根の健全化、有害ガスの除去)
- ・田面を固める(圃場管理、機械作業の効率化)

(2) 施肥

① 「ヒヨクモチ」 中間追肥

- ・「ヒヨクモチ」は中間追肥の時期を迎えている。圃場の生育状況に応じ、地区暦に準じた中間追肥を実施する。(元肥に一発肥料や有機肥料を使用した圃場、大豆跡圃場では、中間追肥は行わない。)

② 「夢しずく」 穂肥

- ・「夢しずく」は7月下旬頃から穂肥の時期を迎える。
- 必ず「穂肥診断」(草丈、葉色、幼穂長を確認)を実施し、診断基準を参考に穂肥を施用する。

表 1. 夢しずくの穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
73cm以下	3.0以下	34以下	20~22日	1 mm	3	15 (山麓20)
	3.0~3.5	34~38	18~20日	2 mm	3	15 (山麓20)
	3.5~3.8	38~39	〃	〃	1.5~2.0	10
	3.8以上	40以上	18日	2 mm	1.0以下	7
73~79cm	3.5以下	38以下	18~20日	2 mm	1.5~2.0	10
	3.5~3.8	38~39	〃	〃	1.0以下	7
	3.8以上	40以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂形成期(幼穂長1mm)を起点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

穂肥の留意事項

- ・早すぎる → 止葉が伸び、倒れやすく、籾数過剰で登熟が悪くなる。
- ・遅すぎる → 籾数が少なく、減収し、タンパク値が高くなり食味が低下。
- ・多すぎる → 倒れやすく、籾数過剰で登熟が悪く、タンパク値が高く食味が低下。
- ・少なすぎる → 籾数が少なく、減収し、米がやせて品質が落ちる。
- ・中干し直後に葉色が淡く草丈が低い圃場についても、中干しの乾土効果(土壤中の有機体窒素が分解によって水稻に吸収される形になる)により、急激に葉色が濃くなる場合があるため、圃場の状況に合わせて散布する。


(3) 病虫害防除

① 海外飛来性害虫

- ・6月23~24日頃、7月1~2日頃を中心に県西部のネットトラップでウンカ類(セジロウンカ、トビイロウンカ)が捕獲されている。
- ・今後の飛来状況や圃場条件(移植時期・品種・防除・周辺環境など)によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・県農業技術防除センターから7/5に情報提供された発生予測図は右図および添付資料参照。



- ・今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

佐賀県 農業技術防除センター 

(3) 除草作業

- ・除草剤が散布できなかつた圃場や除草剤処理後に田面が露出した圃場などでは、除草剤の効果が低下したため、雑草の発生がみられる。
- ・このような圃場で、放置するとヒエや広葉（コナギ・アゼナ）が繁茂し、薬剤による雑草防除が困難となるため、中後期除草剤との体系処理を検討する。
- ・薬剤については添付資料参照

5. 大豆の今後の管理について

安定・多収を目指すには「播種時期に応じた栽植密度の確保」と「出芽・苗立ちの確保」が重要である。

播種適期を迎えており、天気予報や圃場条件に応じた播種を行う。

(1) 今後の天候

- ・梅雨明けしておらず、局所的な大雨も想定される。
- ・九州北部地方の1ヶ月予報では、気温は高く、降水量は平年並みか多く、日照時間は少ない予報である。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 7月18日5時発表)

今日 18日(木)	明日 19日(金)	明後日 20日(土)	21日(日)	22日(月)	23日(火)	24日(水)
曇一時雨 	曇時々雨 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 
-/50/20/20	40/50/50/20	40	20	20	20	20

(2) 雑草防除

① 播種前処理

- ・雑草発生が目立つ圃場では、播種前に非選択性茎葉処理剤（ラウンドアップ、プリグロックス等）を散布する。その際、**周囲の水稻等への飛散がないよう注意する。**
- ・非選択性茎葉処理剤の使用に当たっては耕起前日でも枯殺可能。ラウンドアップは1日で吸収移行、散布後1時間後の降雨でも効果が期待される。プリグロックスは1日程度で効果発現、散布後15分後の降雨でも効果が期待される。

② 播種後処理

- ・播種直後に土壌処理剤を散布する。なお、難防除雑草のヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウの発生が多い圃場ではフルミオ、ラクサー乳剤の除草効果が高い。

(3) 圃場準備

- ・荒起しは、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。
- ・耕起後に降雨にあった場合は土壌が乾燥しにくく、晴天が続く場合は乾燥し

やすくなる。播種後に晴天が予想される場合には、乾燥による発芽率の低下が懸念されるため、荒起こしと播種耕起の間隔を空けないようにする。

(4) 播種作業

①種子消毒

- ・紫斑病やその他の雑菌の防除効果が高く、腐敗防止や発芽率の向上に効果がある為、種子消毒（クルーザーMAX、キヒゲン R2 フロアブルなど）を実施する。

②播種量・深度など

- ・大豆の収量を確保するためには、播種時期にあった播種量を選択し、栽植密度を調整する。

播種期	栽植本数 (本/m ²)	栽植様式 条間×株間×1株本数	播種量 (kg/10a)
7月 11～20日	10本	75×25×2	3.0～3.5
7月 21～31日	13本	75×20×2	4.0以上

- ・播種後に降雨が多い予報の場合、2 cmの浅めにして播種後の鎮圧は行わない。
- ・播種後に晴天が続く場合は、4～5 cm前後の深めにして鎮圧を行う。
- ・1工程で播種する場合には、碎土率を高めるため、作業速度を遅くする。
- ・播種作業には、麦用の「片培土板」をロータリに装着して畦立て播種すれば、表面排水も良くなるため、湛水による出芽不良を軽減することができる。

